

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	地震荷重小委員会		主 査 名：大川 出 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 振動運営委員会		委員長名：和田 章 主 査 名：三浦賢治
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	地震荷重小委員会では、地震に対する建築物の要求性能を満たす設計の今後の方向性を示唆する枠組み、内容について総合的に検討し新しい地震荷重評価法を構築すること、さらにこれらを刊行物にまとめることを目的に活動している。		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	大川出(建築研究所)、林康裕(京都大学)、壇一男(清水建設)、藤堂正喜(戸田建設)、壁谷澤寿海(東京大学)、森保宏(名古屋大学)、松村和雄(鹿児島大学)、翠川三郎(東京工業大学)、緑川光正(建築研究所)、曾田五月也(早稲田大学)、北村春幸(東京理科大学)、香川敬生(地域地盤環境研究所)、神野達夫(広島大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	地震荷重刊行物編集WG： 刊行物の作成・発刊を円滑に実施するための活動(今年度末で廃止)		
2006 年度予算	500,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	1. PD：建築物の地震時挙動を知るために 建築物における強震観測の意義 『構造部門(振動)パネルディスカッション資料：同上』 参加者数 285 名 (強震観測小委員会に協力)
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 刊行物『(仮題)地震荷重 - 性能設計への展望 -』原稿の執筆を完了した。 2. 同上の査読、編集し、完成を急ぐ。
委員会活動の問題点・課題	1. 刊行物の原稿審議に割く時間が多くなっている。(前期の積み残し事項)